

**『はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」』
有効性の検証に関する報告書
【最終報告書】**

平成27年10月

国土交通省 近畿地方整備局

『はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」』

有効性の検証に関する報告書

I. 「はなやか関西～文化首都年～」の有効性検証

1. 実施した取組	3
(1) 関西各地の「関西の食文化」取組参加団体をネットワーク化	3
(2) 実行委員会が実施する取組	4
① 「関西の食文化」シンポジウム	4
② 「関西の食文化」ツアー	5
③ プロモーション事業	7
④ タイアップ企画	9
2. 効果の把握と課題の抽出	10
(1) 効果と課題	10
① 「はなやか関西～文化首都年～」及び各取組参加団体の活動の認知度向上	10
② 地域振興・経済波及効果	11
(2) 総括	17
① 「はなやか関西～文化首都年～」及び各取組参加団体の活動の認知度向上	17
② 地域振興・経済波及効果	17
③ インバウンド観光	17

II. 今後の展開方策

1. 今後の展開方策について	18
(1) 基本的な考え方	18
(2) 平成25年度の効果と課題を踏まえた具体的な取組方針について	18
① 「はなやか関西～文化首都年～」の認知度向上に向けて	18
② 地域振興・経済波及効果の強化に向けて	19
③ インバウンド観光の強化に向けて	19
2. 平成27年度取組について	20

I. 「はなやか関西～文化首都年～」の有効性検証

平成26年度に実施した「はなやか関西～文化首都年～」(以下、「本事業」という。)に関する各取組について、関西全体にもたらす影響等(「関西の食文化」に対する普及啓発、伝統文化の継承、地域資源活用・連携強化(関西ブランドの創造)、情報発信等)について分析し、その有効性を検証する。

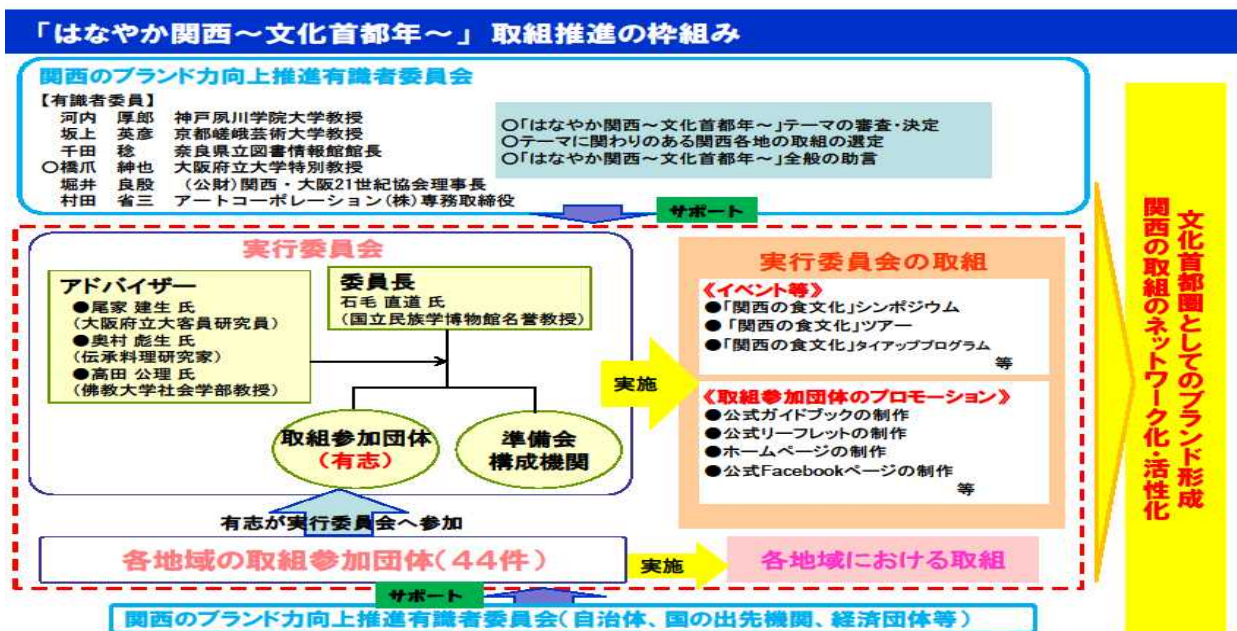
はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」取組内容

<p>プロモーション事業</p> <p>【ホームページ・facebookによる広報】  http://www.facebook.com/hanayaka.kansai2012</p> <p>【リーフレット、クリアファイルによる広報】 </p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ホームページ・facebookによる広報 ◆リーフレットの作成、文化施設・観光協会、各構成機関(自治体等)への配布 … 20,000部 ◆クリアファイルの作成、配布 … 2,000枚 	<p>「関西の食文化」ツアー(11月～2月・計4ツアー)</p> <p>関西各地の食文化に関する取組に触れていただき、地域のファンになっていただくことで、ひとづくり・ものづくり・地域づくりの促進を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大神神社酒まつり うま酒ツアー(奈良県桜井市) 奈良朱雀高校ビジネス企画部 企画 平成26年11月14日(金) 参加者 14名 ②門真れんこん100年の歴史を食してみませんか? (大阪府門真市) 阪南大学国際観光学部 企画 平成26年11月29日(土) 参加者 12名 ③五感で感じる伝統の酒(大阪府交野市) 阪南大学国際観光学部 企画 平成27年2月21日(土) 参加者 18名 ④北摂三銘酒のふるさと・寺内町高田(大阪府高槻市) 大阪成蹊短期大学観光学科 企画 平成27年2月25日(水) 参加者 9名 <p>◆旅行会社と提携し、食文化に関する取組にまちあるきや現地体験を組み合わせて企画</p> <p>◆学生の活用として、観光を学んでいる学生からもツアー企画案を募集</p>
<p>外国人留学生対象の料理教室(11月)</p> <p>近畿農政局の「日本食文化メッセンジャー」の取組とタイアップし、留学生対象の料理教室及び卸売市場の見学を行った。</p> <p>日時:平成26年11月1日(土) 9:00～12:00 会場:京の食文化ミュージアムあじわい館 京都市中央卸売市場 参加者:京都市内の大学生32名</p> <p>◆京都市中央卸売市場の見学 ◆京懐石「美濃吉」本店竹茂楼(たけしげろう) 調理総支配人による料理教室</p> 	<p>「関西の食文化」シンポジウム(3月)</p> <p>「日本食文化」の世界無形文化遺産登録を受けて、日本人の美意識や生活習慣にも影響を及ぼしてきた日本食文化の源泉としての「関西の食文化」の魅力が「関西ブランド」として国内外に発信し、観光誘客による地域振興に繋げていくための契機とする。</p> <p>日時:平成27年3月4日(水) 13:15～16:15 会場:大阪歴史博物館 来場者数:140名</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆奥村彪生先生(伝承料理研究者)による基調講演 ◆取組団体による活動報告 ◆パネルディスカッション 石毛直道(国立民族学博物館名誉教授)、奥村彪生、尾家建生(大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員)、熊谷真菜(日本コナモン協会会長)【敬称略】

1. 実施した取組

(1) 関西各地の「関西の食文化」取組参加団体をネットワーク化

取組参加団体が実施する取組を本事業のプロモーションで紹介するとともに、実行委員会を組成し、具体的な取組内容の検討及び意見交換の場とした。



(2) 実行委員会が実施する取組

① 「関西の食文化」シンポジウム

関西の“ほんまもん”「関西の食文化」の魅力・歴史・取組等について広く知っていただくことで、「関西の食文化」に関連する地域づくり活動を活性化させ、「文化首都圏・関西」の形成を目的に実施した。

【開催時期】

平成27年3月4日(水) 13時15分～16時15分(入場無料:先着申込順)

【会場】

大阪歴史博物館 4F講堂

【出席者】

140名(市民、地域づくり関係者、文化関係者、行政 等)

【タイトル】

はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」シンポジウム

【プログラム】

- 13:15～13:20 開会挨拶
- 13:20～14:10 基調講演「関西のほんまものの味」
講演者：伝承料理研究家 奥村彪生
- 14:20～14:45 取組団体発表
- ・滋賀の食事文化研究会
「魚米之郷の食事文化」
 - ・うるしの里いきいき協議会
「食と農と伝統漆器を連携させて地域活性化を目指す」
- 14:55～16:15 パネルディスカッション
「関西の食文化の魅力発信と伝承～文化首都圏・関西の形成に向けて～」
- ・コーディネーター 高田公理（佛教大学社会学部教授）
 - ・パネリスト 石毛直道（国立民族学博物館名誉教授）
奥村彪生（伝承料理研究家）
尾家建生（大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員）
熊谷真菜（日本コナモン協会会長）

[敬称略、順不同]



委員長挨拶



基調講演



会場風景



取組報告①



取組報告②



パネルディスカッション

② 「関西の食文化」ツアー

「関西の食文化」に触れていただき、地域のファンになっていただくことで、「ひとづくり・ものづくり・地域づくり」の促進を図ることを目的に実施した。企画にあたり、観光を学んでいる学生（大学、高校）に協力を依頼した。平成26年度は4ツアー企画し、すべて催行することができた。

●VOL. 1 大神神社酒祭り うま酒ツアー（奈良県桜井市）

【催行日】	平成26年11月14日（金）
【内 容】	西内酒造見学 聖林寺（国宝十一面観音）参拝 割烹・榊谷にて昼食 旧三輪街道散策・今西酒造見学 狭井神社～活日神社参拝 大神神社（正式参拝・ふるまい酒）
【料 金】	3,980円
【参加人数】	14名

●VOL. 2 門真れんこん100年の歴史を食してみませんか？（大阪府門真市）

【催行日】	平成26年11月29日（土）
【内 容】	れんこん掘り見学 おいしいれんこんの食べ方教室 れんこん屋にて昼食（れんこんづくしのコース料理）
【料 金】	3,300円
【申込人数】	12名

●VOL. 3 五感で感じる伝統の酒（大阪府交野市）

【催行日】	平成27年2月21日（土）
【内 容】	ボランティアガイドによる交野市案内 山野社長による日本酒講座 酒蔵見学&体験 日本酒の試飲 質問&お買いもの

山野酒造にて昼食
 【料 金】 3,500 円
 【申込人数】 18 名

●VOL. 4 北摂三銘酒のふるさと・寺内町富田

【催行日】 平成 27 年 2 月 25 日 (水)
 【内 容】 清蓮寺 (清水家菩提寺) 参拝
 壽酒造の酒蔵見学 (新酒試飲・昼食「あやめうどん」)
 三輪神社参拝
 普門寺 (高槻銘菓「たらちね」ご賞味)

【料 金】 3,100 円
 【申込人数】 9 名



VOL. 1 大神神社酒祭り うま酒ツアー
 (H26. 11. 14)



VOL. 2 門真れんこん 100 年の歴史を
 食してみませんか？
 (H26. 11. 29)



VOL. 3 五感で感じる伝統の酒
 (H27. 2. 21)



VOL. 4 北摂三銘酒のふるさと
 寺内町富田
 (H27. 2. 25)

③ プロモーション事業

本事業の取組を広く情報発信するために、前年度に引き続きホームページ上での情報発信や「公式ガイドブック」を作成し、配付した。また、ガイドブックの内容をコンパクトにまとめた「リーフレット」も作成し、配付した。さらに、取組の認知度向上のために非常に有効と考えられるSNSとして「はなやか関西 公式フェイスブックページ」の運用を昨年度に引き続き行った。なお、具体的取組についても、実施時期を考慮しながらそれぞれチラシを作成し、これらのツールを活用しながらプロモーションを行った。

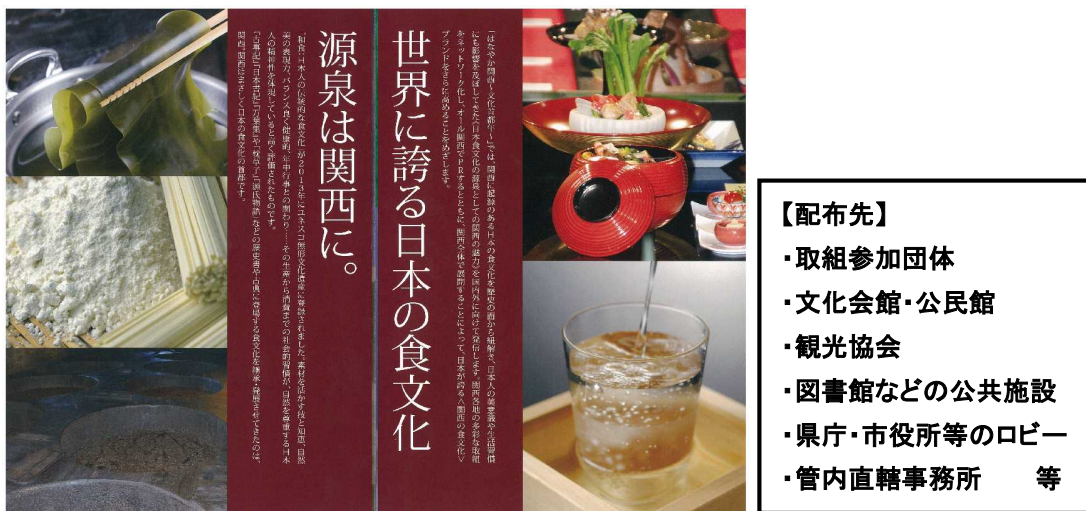
●ホームページ上での情報発信

実行委員会の取組、「取組参加団体」等の情報をホームページ上より発信した。



●『はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」』リーフレット

「取組参加団体」等の情報を冊子にまとめ、分かりやすいガイドブックを作成した。また、その情報を要約し、一目で分かるリーフレットの作成も行った。



●『はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」』公式フェイスブックページ

SNSとして知名度が高く取組の認知度向上に非常に有効と考えられる、フェイスブックによる情報発信を行った。



●具体的取組にかかるチラシの作成・配付

シンポジウムやツアーの実施にあたっては、応募用紙を兼ねたPRチラシを作成し、リーフレット等と同様戦略的に各方面へ配付を行った。

シンポジウム

大神神社酒祭り うま酒ツアー

VOL. 2
門真れんこん 100年の歴史を食してみませんか？

はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」
 関連事業 関西の食文化ツアー
 - 阪南大学 国際観光学部 企画ツアー -

五感で感じる伝統の酒

開催日 平成27年2月21日(土) ※雨天決行
 目的地 山形酒造(株)(大蔵府交野市)

参加費 お一人様 **3,500** 円
 募集人員 20名(最少催行人数10名)

※定員になり次第締め切りさせていただきます。
 ※未成年の方は参加いただけません。
 ※昼食付 ★お土産付

【お申し込み・お問い合わせ】
 TEL:075-823-3640
 FAX:075-813-3765
 E-Mail: info@beautiful-tour.jp
 HP: http://www.beautiful-tour.jp

集合場所:京阪交野市駅改札口付近

VOL. 3

五感で感じる伝統の酒

はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」関連事業
 大阪成蹊短期大学 観光学科 企画ツアー

北摂三銘酒のふるさと・寺内町富田

—歴史の宝庫を訪ね、知られざる酒を味わおう—
ご存知ですか！

日時:平成27年2月25日(木)
 参加費: 3,100円
 集合時間:10時 阪急富田駅南口
 募集人数:20名(最少催行人員10名)

※昼食・お土産(新酒)付!
 ※未成年の方はご参加頂けません
 ※雨天決行

富田酒の歴史は古く、江戸時代からの伝統を有しています!
 富田酒は北摂三銘酒の一つです。
 富田酒造は古代皇室御料とされるほど良質の産地であり、しかも河内山崎からの清流水が湧き出る地です。そんな富田に欠かせない良種を醸す富田酒造は昔ながらの酒造が通い続けてきた。関が原の合戦の功により、清水市郡右衛門(豊後)が酒造業を営むことになり、富田の酒造業は隆盛を極めてきた。今も、その伝統を引き継いで、酒造業を営んでいます。

その一、酒造蔵元 橋本社長による**酒蔵案内!**
 その二、**新酒**を試飲!
 その三、**食文化は「富田名産「あやめ」**!
 私たちと大阪(大阪成蹊短期大学)の結びつき
 その四、**歴史**を堪能!
 富田酒造の歴史をたどる「たけのこ」の歴史を堪能!
 その五、**専門**を堪能!
 文政5(1822)年創業、徳川幕府の酒造りの伝統を守り続けています。フランクに「富田酒造」「あやめ」の歴史をたどります。これまでに全国新酒造業研究会で研究発表を行いました。各社職員の経験、今更、また酒造の現場をご覧いただけます。さらに新酒の試飲をお楽しみいただけます。

集合場所:山崎町富田

VOL. 4

北摂三銘酒のふるさと
 寺内町富田

④ 『はなやか関西～文化首都年～2014「関西の食文化」』タイアップ企画

本事業を国内外に広く情報発信するため、以下のタイアップ企画が行われた。

●日本食文化メッセンジャー ～ 外国人留学生の料理体験 ～

近畿農政局の「日本食文化メッセンジャー」の取組とタイアップし、2014年11月1日(土)、京都市中央卸売市場の見学と「京の食文化ミュージアム・あじわい館」で、京懐石「美濃吉」本店竹茂楼(たけしげろう) 調理総支配人による料理教室を開催した。

「日本食文化メッセンジャー」の取組は、外国人留学生等に対し、日本食文化に関する体験の場や情報を提供し、留学生等の視点で発見した魅力をSNSを活用し、母語で情報発信してもらうことにより、世界各地の人たちに日本食文化を伝える企画として実施した。

当日は京都市内の大学から留学生を中心に32名の学生が参加した。市場の見学では、取引されるたくさんの海産物、農産物を見ることに加え、市場の方々の仕事ぶりを目の当たりにし、参加した学生はたいへん感激していた。

また、料理教室では、講師である「美濃吉」調理総支配人からの和食の魅力、調理方法の丁寧な説明により、その後の実習も大変有意義なものとなった。「和食」の魅力を世界に向け発信していく良い取組となった。

●フードツーリズム・フォーラム「ガストロノミーとフードツーリズム」

本事業の一つとして、取組参加団体フードツーリズム研究会による「関西の食文化とフードツーリズム」フォーラムが平成27年2月14日(土)「阪急ターミナルビル16F(追手門学院大学 大阪梅田サテライトセミナールーム)」で行われた。

【プログラム】

・ 基調講演

「ガストロノミーの誕生と発展 –なぜフランスにガストロノミーは生まれたのか」

八木尚子（辻静雄料理教育研究所所長）

・ パネルディスカッション

「ガストロノミーとフードツーリズム」

[パネリスト]

八木尚子

尾家建生（大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員）

玉置桃子（関西外国語大学英語キャリア学部准教授）

[コーディネーター兼パネリスト]

村上喜郁（追手門学院大学経営学部准教授）

[敬称略、順不同]

2. 効果の把握と課題の抽出

本事業では、「関西の食文化」に関する多種多様な主体との連携の下、様々な取組を行うことによって産学官民一体となって関西ブランドとしての「関西の食文化」を発信してきた。

企画ツアー及びシンポジウムにおいてご協力いただいたアンケート結果をもとに、効果と課題を抽出する。

（1）効果と課題

① 「はなやか関西～文化首都年～」及び各取組参加団体の活動の認知度向上

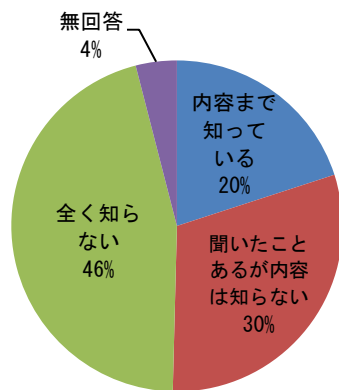
■公式フェイスブックの運営

「はなやか関西公式フェイスブック」のページについては、「いいね！」の登録者数が332名（平成27年3月31日現在）となっている。必ずしも多いとは言えないが登録者からの波及効果も考慮すると、フェイスブックの認知度も徐々にではあるが向上していると考えられる。

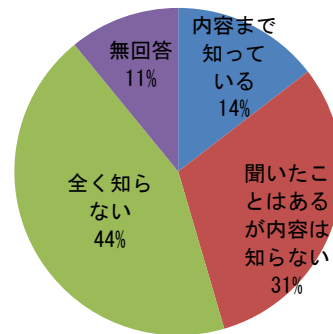
■本事業の認知度

アンケート結果を検証すると、本事業そのものに関しては、「取組の内容まで知っている」と回答した人が、シンポジウムでは20%、ツアーでは10%強という結果であった。一方、本事業のホームページについても、「見たことがない」との回答がシンポジウム、ツアーともに約60%という結果であった。取組の認知度向上に向け、プロモーション等に注力していく必要がある。

●本事業の取組に対する認知度

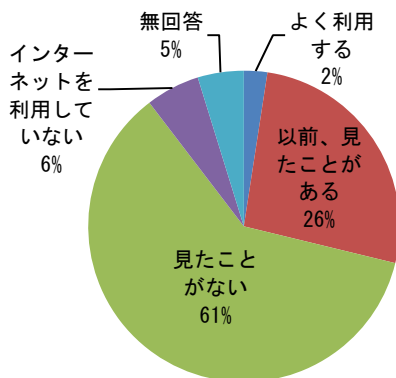


「関西の食文化」シンポジウム参加者

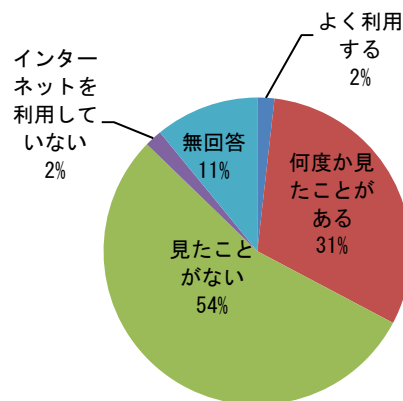


「関西の食文化」ツアー参加者

●ホームページの認知度



「関西の食文化」シンポジウム参加者



「関西の食文化」ツアー参加者

② 地域振興・経済波及効果

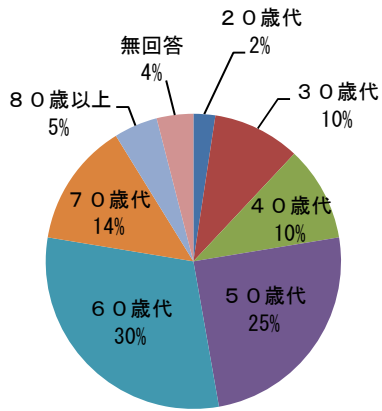
■「関西の食文化」シンポジウムの実施

「関西の食文化」シンポジウムについては、参加者数が140名であり、一定の集客がなされた。参加のきっかけを確認したところ「チラシ・パンフレット」の効果が比較的高いという結果が出た。

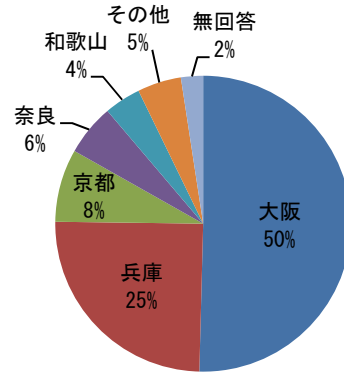
動機については「関西の食文化」について理解を深めるためとの回答が多く、食への関心の高さがうかがえる。

また、基調講演、取組参加団体による活動報告、パネルディスカッションすべてにおいて、概ね良いアンケート結果が得られた。

●シンポジウム参加者

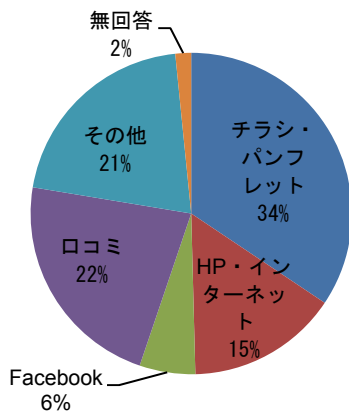


参加者年齢構成

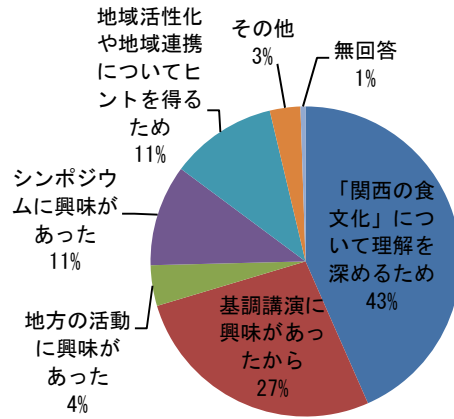


参加者居住地

●シンポジウムへの参加理由

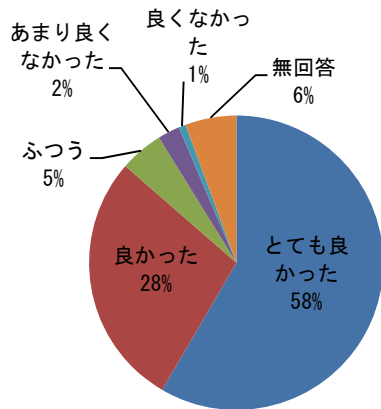


参加のきっかけ

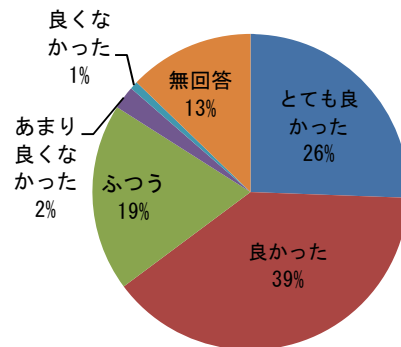


来場目的・動機（複数回答）

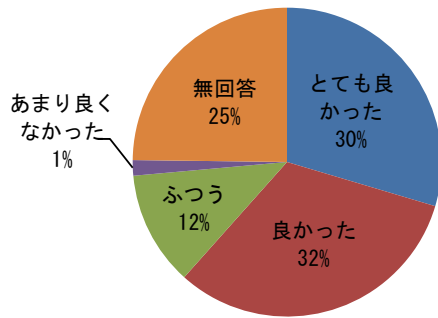
●各プログラムの評価



基調講演



取組発表



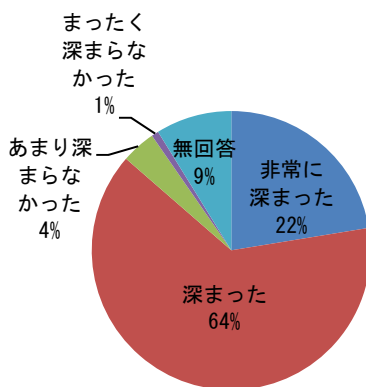
パネルディスカッション

今回のシンポジウムでは、若年層（学生）から高齢層まで幅広い年齢層の参加者を集めることができた。理由としては、一昨年「和食：日本人の伝統的な食文化」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録され、メディア等で多く取り上げられたことも一因と考えられる。ただ、平日の午後、そして谷町4丁目という必ずしも交通結節点とは言えない場所での開催ということで、集客は若干伸び悩んだ。

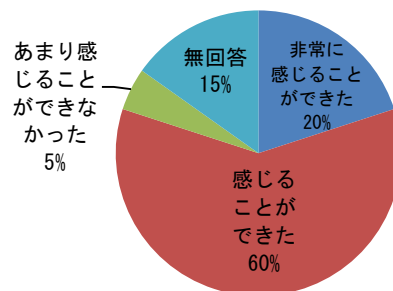
参加者の居住地については、大阪府内からの参加者が50%を占めた。

また、「関西の食文化」についての理解・関心、関西の「本物の文化」を感じたか、「関西＝文化首都」の印象はあるか、関西における「本物の文化」の継承・発展の取組を国内外へ発信する意義を感じるか、といういずれの項目においても「深まった」「感じた」「思う」といった前向きな回答が80%を超えていた。

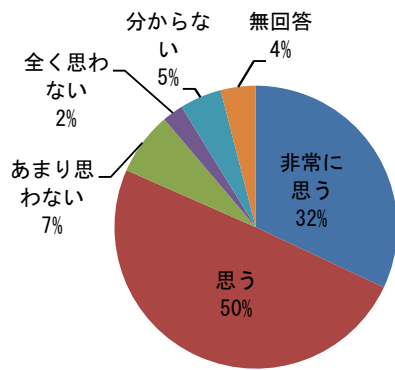
●シンポジウム終了後の感想



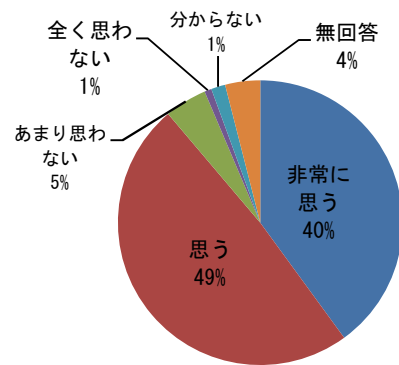
「関西の食文化」についての理解、
関心は深まったか



関西の「本物の文化」を感じる事ができたか



「関西＝文化首都」の印象はあるか



「関西の本物の文化」を発信するプログラムとして有効か

■ 「関西の食文化」ツアーの実施

アンケート結果によると、全体評価では全てのツアーで参加者の90%以上が「とても良かった」「良かった」と回答しており、高い評価が得られた。費用では、「高い」との回答はほとんどなく、概ね適切であったと考えられる。時間についても、「適切」との回答が数多くあった。

今回のツアーでは、出発地あるいは目的地が大阪府内である企画が多く、参加者の約60%が大阪府内の方であった。年齢層については、50代以上が約50%を占めており、若年層の参加者数が限定的（必ずしも多くない）であったことは反省すべき点である。

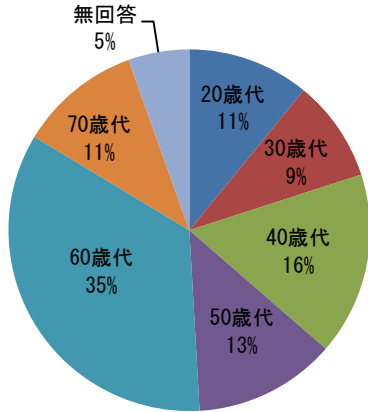
参加の目的では「食」への関心だけでなく、町歩きを楽しむ、地域の魅力を感じたいといった目的での参加者も多かったことがわかる。

参加のきっかけを見ると、「チラシ」、「口コミ」による参加者が比較的多かった。

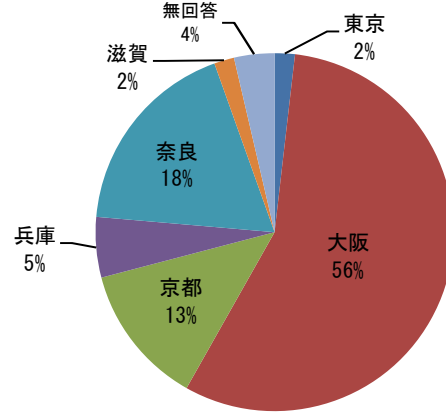
また、『関西は「本物の文化」が今も根付く我が国いちばんの地域だと思うか？』（関西＝文化首都）という問いに対して、約80%の参加者から「思う」という回答があった。また、『関西が「本物の文化」をテーマとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信することに意義があると思うか？（「関西の本物の文化」を発信するプログラムとして有効か）』という問いに対しても、約90%の参加者から「思う」という回答があった。さらに、「今後も今回のような着地型ツアーに参加してみたいと思うか？」という問いに対して、「ぜひ参加したい、機会があれば参加したい」という回答も約90%あった。

今後もこれらの回答からうかがえる期待に応えられるような取組を検討していく必要がある。

● ツアー参加者

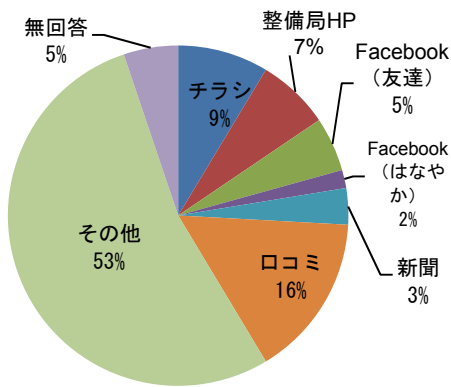


参加者年齢構成

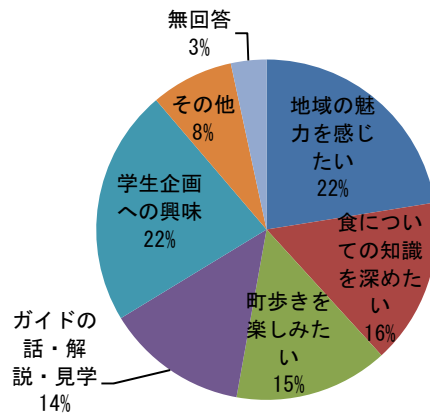


参加者居住地

● ツアーへの参加理由

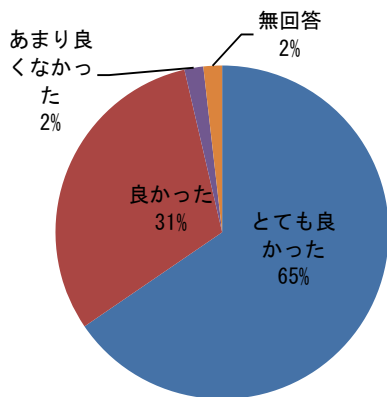


参加のきっかけ

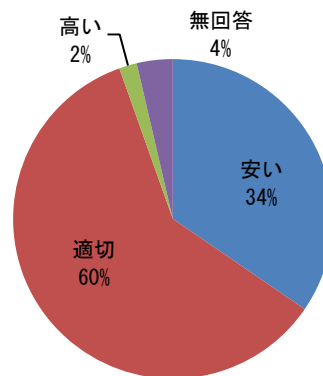


参加目的・動機 (複数回答)

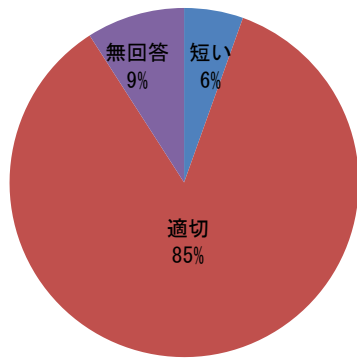
● ツアー終了後の感想



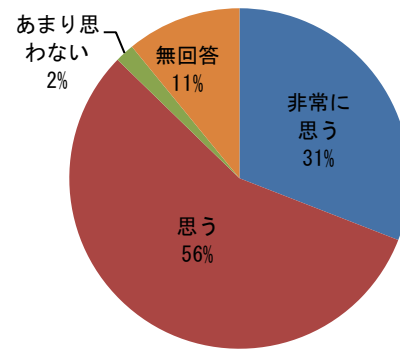
全体評価



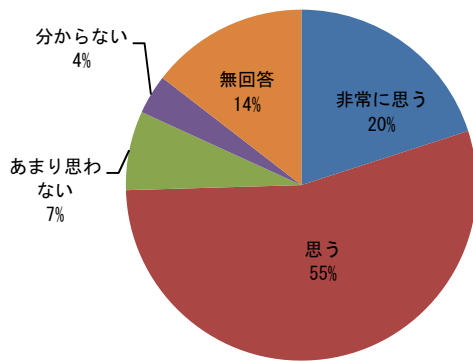
ツアー費用



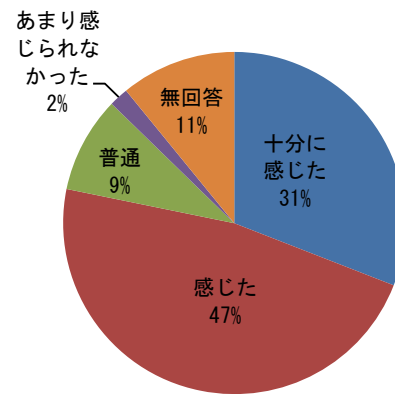
ツアー時間



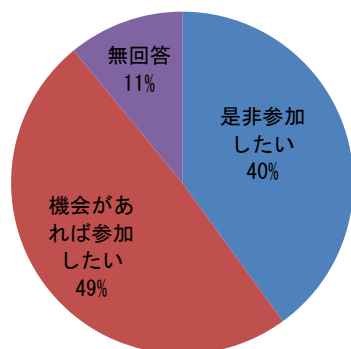
「関西の本物の文化」を発信するプログラムとして有効か



「関西＝文化首都」の印象はあるか



ツアーを通じて地域の魅力を感じたか



今後も今回のような着地型ツアーに参加してみたいと思うか

(2) 総括

① 「はなやか関西～文化首都年～」及び各取組参加団体の活動の認知度向上

プロモーション事業の実施やシンポジウム等の開催により、関西の食文化及び各取組参加団体の活動の認知度向上、文化首都圏・関西のPRに一定の成果があったと考えられる。

しかしながら、必ずしも関西において広く一般に認知される取組にはなっていないため、本事業の認知度向上に向けて、より効果的なプロモーションについて検討が必要である。

② 地域振興・経済波及効果

取組参加団体による活動報告やツアーの開催により経済波及効果、文化首都圏・関西のPRに一定の成果があったと考えられる。

学生の活用については、ここ数年の取組により大学・学生とのつながりが生まれつつあることから、今後も学生を活用したイベント等を検討し、つながりの維持・拡大を目指す必要がある。

ツアーについては、すべての企画ツアーにおいて一定人数の参加者があり、開催することができた。ただ、やはり参加者が限定的であることから、今後、より効果の上がる方法を検討する必要がある。

③ インバウンド観光

平成 26 年度は、インバウンド効果を高めるため、近畿農政局とタイアップし、外国人留学生対象の企画を実施した。

今後もより幅広く、インバウンド効果を考えられる企画を検討する。

II.今後の展開方策

本事業の実施を踏まえ、次年度以降の展開方策について検討を行う。その際、近畿圏の活性化を図るため、近畿圏広域地方計画の趣旨を活かして多様な主体との連動性を向上させ、広域的な連携支援のあり方となるよう留意する。

1. 今後の展開方策について

(1) 基本的な考え方

■ 「はなやか関西～文化首都年～」の取組は「意義がある」との意見が大半

本事業によるアンケート結果より、関西は本物の文化が今も根付く、一番の地域(文化首都)であると多くの人々が認識していることが分かった。また、本事業の取組(「本物の文化」をテーマとし、文化の継承・発展に取り組むとともに、国内外へ発信する)に意義があるとの回答も非常に多かった。

歴史的・文化的な「本物」の地域資源が豊富に存在する関西の優位性を活かし、引き続き取組を実施していく必要がある。

■ できることを着実に積み上げ実績を残す

今後、本事業の動きを拡大していくためには、認知度を向上させ、また取組参加団体が積極的に参加することでネットワークが生まれ、継続的な取組が可能となる、という体制作りが必要である。そのためにも、関係機関や取組参加団体、有識者委員会委員等のそれぞれが協力し合い、可能な限り資源を出し合い、実績を着実に積み上げ、本事業の輪を広げていくことが重要である。望ましい推進体制構築に向けて、様々な形態を試行・検証していくものとする。

(2) 平成26年度の効果と課題を踏まえた具体的な取組方針について

① 「はなやか関西～文化首都年～」の認知度向上に向けて

■ アドバイザー体制の継続

平成26年度の事業においては、実行委員長に

- 石毛 直道 (国立民族学博物館 名誉教授)

またアドバイザーとして

- 尾家 建生 (大阪府立大学観光産業戦略研究所客員研究員)
- 奥村 彪生 (学術博士・伝承料理研究家)
- 高田 公理 (佛教大学社会学部教授)

[敬称略・順不同]

にご協力いただきながら各取組を実施してきた。

本事業を通じて文化首都圏を確立していく上では、関西の本物の文化をリードする方々の協力は不可欠であり、今後も、テーマに関して通暁する有識者を配置することが望ましい。

これに加え、本事業の情報発信強化の観点からは、情報発信・広報に強みを持つ有識者の方にも協力いただけるよう積極的に働きかけることが必要と考えられる。

■ 公式フェイスブックの継続

「関西の食文化」公式フェイスブックを通して生まれたつながりを次年度以降にも継続するために、引き続き公式フェイスブックでの取組は重要と考える。

■ 関係機関の参加促進

関西が文化首都圏を強く推進していくためには、関係機関の協力が不可欠と言える。このため、本事業では関係機関の文化・観光部局の担当にオブザーバーとして参加いただき、取組に対しての調整等を行ってきた。引き続き、プロモーション等の面で協力・連携しながら取組を実施していくこととする。

また、今後は、関西の観光や魅力発信に取り組む民間団体等との関係強化にも取り組むことが重要と考えられる。

■ 各地域の取組団体への積極的アプローチ

各地域の取組団体に対しても本事業の認知度は高いとは言えないため、広く協力を得るために、関係機関の協力を得ながら事務局等から積極的にアプローチを行い、参加打診を行っていく必要がある。

② 地域振興・経済波及効果の強化に向けて

■ 学生の参加促進

本事業では、

- 「関西の食文化」に係わる対象を若年層にも広げる
- 「関西の食文化」を新しい世代により盛り上げていく
- 「文化首都圏・関西」づくりに新鮮な意見を取り込む

という効果を期待して、関西で「観光」を学ぶ大学生、高校生にご協力いただき、ツアーを企画した。今年度は企画した4ツアーすべて一定人数に達し、催行することができた。学生の皆さんにも良い経験になったと思われる。

また、本事業の魅力向上のためには、民間の協力が不可欠である。企画ツアーの実施は地域振興に有効であると考えられるため、来年度以降も、より魅力的なツアーの実施方策を検討することを検討する。

③ インバウンド観光の強化に向けて

関西の魅力海外へ発信するために、構成機関や経済団体等が主催する海外向けの取組とのタイアップを検討する。また、関係機関や経済団体等と連携し、外国人対象のモニターツアー等のイベント実施を検討していくことも一例である。

2. 平成27年度の取組について

■テーマは「街道」

古代から近世にかけて、日本の政治、経済、文化の中心であった関西には、数多くの歴史・文化資産が存在する。国宝の約6割、重要文化財の約5割が集積し、また人々の交流を支えた街道の多くもこの関西が起終点となっている。

そこで、今後は複数年にわたり、魅力ある歴史・文化資産に関する取組を行うこととし、平成27年度は「街道」にフォーカスして、地域づくりの一助となれるよう、関西の魅力を発信する取組を進めていく。